

施策評価（令和元年度）

施策評価調書

戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略			
施策6-7 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供			
幹事部局名	教育庁	担当課名	生涯学習課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和元年8月23日

1 施策のねらい（施策の目的）

地域コミュニティを活性化する取組や魅力ある地域づくりへの住民参加を促進し、元気な秋田づくりにつなげていくため、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化体験活動を通じて豊かな情操を育むとともに、共感を通じて人と人とを結び付け、協働・共生する心、主体的に判断し適切に行動する力の育成を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①							施策の方向性(2)	
年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考	
芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合(%)	目標			28.0	29.0	30.0	31.0	
	実績	26.6	23.7	24.3				
	達成率			86.8%				
出典:県生涯学習課調べ	指標の判定			d				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-			
		東北	-	-	-			
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度までの3年間年平均約2,400人の利用があった「あきたの子ども文化体験促進事業」（秋田県立美術館利用時のバス代補助、事業参加児童による作品展の実施、アートカードの作成）の規模縮小(バス利用事業については県北地区からのみの募集で271名利用。作品展は開催せず。)により利用者数が伸びず、目標に達しなかった。 しかし、各施設から過去利用校への利用の打診や、各学校を訪問して実施する出前授業を積極的に行うことにより、昨年度に比べ実績は上昇している。 								

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 \geq 100% 「b」：100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」：90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

							施策の方向性(1)	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
生涯学習支援システムにおける生涯学習講座の登録件数(件)	目標			2,100	2,300	2,500	2,800	
	実績	1,569	1,570	2,351				
出典:県生涯学習課調べ	達成率			112.0%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—			
		東北	—	—	—			
	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習支援システムへの登録を市町村職員が直接入力できるよう研修会を実施したほか、県と市町村が連携し、市町村の広報誌等の情報を掲載することにより、大幅に登録件数を増やすことができた。 主管課長会議における周知や、市町村担当職員への個別の働きかけにより、生涯学習支援システム登録に取り組む市町村が増え、これまで周知できていなかった情報をすくい上げることができた。 							

							施策の方向性(1)	
成果・業績指標②	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県立図書館司書による県立学校図書館への訪問支援等の実施件数(校)	目標			20	25	30	30	
	実績	10	10	20				
出典:県生涯学習課調べ	達成率			100.0%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—			
		東北	—	—	—			
	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度は、各学校の個別の相談に応じる要請による訪問を10校で実施した。平成30年度は、県立図書館による学校図書館支援についての周知を図るため、計画的な訪問を20校で実施しており、目標を達成した。 							

							施策の方向性(2)	
成果・業績指標③	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
国・県指定等文化財の件数(件)	目標			767	770	773	776	
	実績	758	764	771				
出典:県文化財保護室調べ	達成率			100.5%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—			
		東北	—	—	—			
	<ul style="list-style-type: none"> 国・県指定等文化財の件数は、国登録有形文化財(建造物)について5件の登録があったほか、県指定では、天然記念物1件の解除があったものの、有形文化財3件の指定を進めることにより、着実に増加するとともに目標を達成した。 国登録を進めるにあたっては、市町村が見出した候補物件を、文化庁調査官来県時に下見してもらう等、国や市町村との連携を密にしながら取り組んでいる。 							

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 多彩な学びの場づくりと学びを生かした地域づくりの推進【生涯学習課、総合政策課】	指標	成果①②
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習支援システムへの登録を市町村職員が直接入力できるよう研修会を実施した（3回<+1回>、9市町村<△2市町村>、16名参加<+4名>）。また、県と市町村が連携して市町村の広報誌等の情報を掲載することで、大幅に登録件数を増やすことができた（2,351件<+781件>）。 あきたスマートカレッジでは新たに民間企業と連携した「官・民・学連携講座あきたチャレンジゼミ」を開催した（552名参加）。また、県庁出前講座では202講座を提供した（620回<△56回>、34,156人参加<+1,641人>）。 読み聞かせボランティア養成講座を県内3地区で実施することにより、学校や地域において読書環境整備のために活動できる人材を育成することができた（3会場<△5会場>/95名受講<△15名>）。また、県内各地で活動するボランティアが一堂に会し、研修・情報交換を行う交流会を開催することで、ネットワークの構築を図った（年1回開催）。 県立図書館司書が県立学校図書館を訪問し、情報提供や支援を行ったことにより、各校における読書環境の向上や、図書館資料を活用した授業の実施などにつながった（20校訪問<+10校>）。 企業や民間団体をパートナーとし、住民が利用しやすい施設に図書コーナーを設置する市町村に対して、図書や本棚の購入費などの初期費用を助成した（横手市ほか7市町村<+3市町村>）。 「第5回ふるさと秋田文学賞」の作品を募集し、応募作117編の中から受賞作4編を収めた作品集を刊行（300部<±0部>）の上、県内の図書館等で閲覧や貸出ができるようにした。また、能代市ほか関係団体と実行委員会を組織して「ふるさとの文学と読書のつどい2018in能代」を実施した（参加者約320名<△約30名>）。 		

(2) 良質な芸術・文化体験機会の充実と文化遺産の保存・活用【生涯学習課、文化財保護室】	指標	代表①、成果③
<ul style="list-style-type: none"> 各施設で実施できるセカンドスクールの内容について「利用の手引き」で県内の全小・中学校に紹介するとともに、過去の利用校や各施設の近隣校に直接、利用の打診をすることで、セカンドスクール的に利用した小・中学生の割合は、目標値には達しなかったものの、昨年度に比べ実績は上昇した。 博物館、美術館等では「千住博展」など多彩な展覧会等を開催し、4館（博物館、農業科学館、県立美術館、近代美術館）で468,456名が利用した<+161,182名>。 「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、関係4道県が協力して課題解決を図りながら、より分かりやすく、説得力を持った推薦書に改訂した結果、文化審議会が選出する世界文化遺産推薦候補となった。 少子高齢化により後継者不足が課題となっている民俗芸能について、これまで小学校で実施してきた、学び発表する体験学習等の機会を、中学校に拡充した。また第60回北海道・東北ブロック民俗芸能大会を開催し、県民の民俗芸能への理解を深めた。 平成30年12月に、「男鹿のナマハゲ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録された。また、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に4市（能代市、男鹿市、由利本荘市、にかほ市）が追加認定された。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合」は「d」判定であり、定量的評価は「D」。 ● 生涯学習支援システムへの登録件数が前年度に比べて49.7%伸びたことに加え、あきたスマートカレッジや県庁出前講座等のより多様な学びの場を提供することにより、地域で活躍できる人材を育成することにつながっている。 ● 「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産推薦候補に選出されたほか、「男鹿のナマハゲ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことから、観光振興への波及効果が期待されるとともに、文化遺産等の価値の再認識や保存・活用への機運が高まってきている。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。					
満足度	調査年度	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見	16.1%				
	十分 (5点)	1.8%				
	おおむね十分 (4点)	14.3%				
	ふつう (3点)	49.1%				
	否定的意見	14.2%				
	やや不十分 (2点)	10.1%				
	不十分 (1点)	4.1%				
	わからない・無回答	20.7%				
平均点	2.99					
調査結果の認識、取組に関する意見等						
<p>○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.99」で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。</p> <p>「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.1%、「ふつう」は49.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.2%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は65.2%であった。</p> <p>○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都会と比べると子どもにとって色々な文化を見る機会が少ない。(男性/20歳代/仙北地域) ・ 秋田市などでは芸術に触れる機会は大いにあるが、秋田市以外の地域ではなかなか触れる機会がない。(女性/40歳代/仙北地域) ・ 生涯学習の催しへの若者の参加が少なすぎて、半ば退職者向けの趣味・娯楽にしかならない。もっと若者の利用を向上させるべき。また、講演会や講座の様子をライブ配信したり、動画サービスにアップロードして時間の取れない人も利用できるようにすべき。(男性/30歳代/秋田地域) 						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生の本に親しむ機会の充実を支援するため、県立図書館で貸出用セット資料を重点的に整備しているが、一部の学校の活用にとどまっている。 ○ 生涯学習支援システムの登録研修を市町村職員向けにおこなっているが、多忙化等の理由により、全市町村の職員が参加することができていない。 ● 生涯学習の催しへの若者の参加が少ないと思う(県民意識調査より)。 ● 講演会や講座に参加できない人もおり、ライブ配信や動画サービスにアップロードするなど、多くの人が利用できるようにするべきだと思う(県民意識調査より)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立図書館による広報活動や個別の学校図書館訪問を通して、支援事業を活用する学校数を増やし、高校生が本に親しむ環境の充実を図る。 ○ 生涯学習支援システムの登録研修への出張が難しい市町村へ県職員が出向き、研修会の機会を提供する。 ● 高校生対象の講座を開催するなど若者向け講座も実施していく。 ● 生涯学習センター主催講座のケーブルテレビでの放映や、トワイライト講座の実施等、多様な方法での学習機会の提供に努める。
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立美術館への交通費の補助が無くなったことにより、セカンドスクールの利用の減少が見込まれ、従来までの来館中心の利用を促すだけでは、利用の増加は難しい。 ○ 地域の文化財の総合的な保存と活用について、民俗文化財の後継者が不足しているほか、文化財保護法の改正を踏まえ、地域社会総がかりで文化財保護に取り組む仕組みづくりが急がれる。 ○ 縄文遺跡群の世界文化遺産早期登録や民俗芸能「風流」等の無形文化遺産登録に向けた取組が望まれている。 ● 都会に比べ芸術・文化に触れる機会が少ない。県内でも秋田市以外の地域では機会がなかなかないと思う(県民意識調査より)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習課で発行している「セカンドスクールの利用の手引き」においてより柔軟な利用方法を紹介するため、新たに各施設から学校に学芸職員等が出向く「出前授業」の紹介ページを追加してその周知を図り、各学校・教員に対して多様な形態での利用を促していく。 ○ 文化財の調査や保存修理、民俗文化財の後継者育成の取組を継続するとともに、令和2年度末までに秋田県文化財保存活用大綱の策定を進め、地域の文化遺産を観光振興・地域振興につなげる取組を行う。 ○ 世界文化遺産、無形文化遺産への登録に向けた取組を推進する。 ● 美術館や博物館で多彩な展覧会を開催していくとともに、出前による展示を県内各地で開催することにより、県民が芸術・文化に触れる機会の充実を図る。

6 政策評価委員会の意見

<p>自己評価の「C」をもって妥当とする。</p>
